

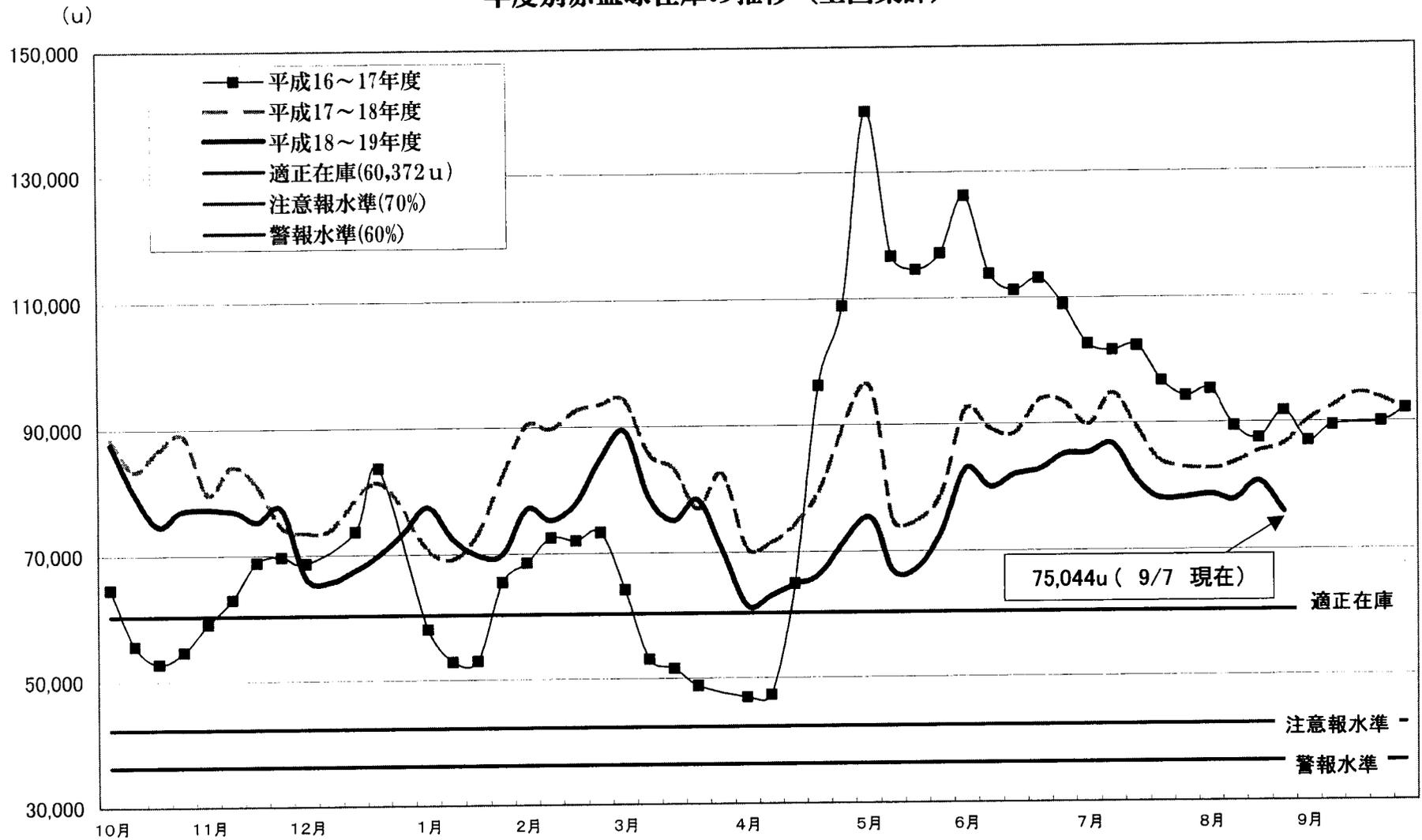
平成 19 年度

血液事業担当者会議資料

-血液事業の課題について-

日本赤十字社

年度別赤血球在庫の推移 (全国集計)



血液製剤の在庫状況(血液センター別)

2007/9/12 6:00 AM

単位:(換算本数)

センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)				センター名	血液型	赤血球製剤(照射血含)			
		適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率			適正在庫数	実在庫数	差	保有率
北海道	A	1,570	1,738	168	111%	富山	A	208	296	88	142%	滋賀	A	230	304	74	132%
	O	1,370	1,447	77	106%		O	156	237	81	152%		O	180	274	94	152%
	B	1,010	1,421	411	141%		B	104	153	49	147%		B	120	261	141	218%
	AB	550	692	142	126%		AB	52	77	25	148%		AB	90	140	50	156%
	合計	4,500	5,298	798	118%		合計	520	763	243	147%		合計	620	979	359	158%
青森	A	250	279	29	112%	石川	A	245	330	85	135%	京都	A	570	879	309	154%
	O	240	259	19	108%		O	210	218	8	104%		O	450	742	292	165%
	B	160	202	42	126%		B	165	257	92	156%		B	325	548	223	169%
	AB	80	82	2	103%		AB	80	84	4	105%		AB	155	248	93	160%
	合計	730	822	92	113%		合計	700	889	189	127%		合計	1,500	2,417	917	161%
岩手	A	220	252	32	115%	福井	A	200	230	30	115%	大阪	A	1,710	1,572	-138	92%
	O	220	179	-41	81%		O	170	235	65	138%		O	1,350	1,814	464	134%
	B	150	259	109	173%		B	115	149	34	130%		B	900	1,201	301	133%
	AB	80	71	-9	89%		AB	65	64	-1	98%		AB	540	686	146	127%
	合計	670	761	91	114%		合計	550	678	128	123%		合計	4,500	5,273	773	117%
宮城	A	470	621	151	132%	長野	A	350	378	28	108%	兵庫	A	1,000	983	-17	98%
	O	420	395	-25	94%		O	300	299	-1	100%		O	750	964	214	129%
	B	280	437	157	156%		B	250	345	95	138%		B	500	629	129	126%
	AB	130	106	-24	82%		AB	152	164	12	108%		AB	250	280	30	112%
	合計	1,300	1,559	259	120%		合計	1,052	1,186	134	113%		合計	2,500	2,856	356	114%
秋田	A	200	260	60	130%	岐阜	A	282	288	6	102%	奈良	A	234	232	-2	99%
	O	200	160	-40	80%		O	214	182	-32	85%		O	204	173	-31	85%
	B	130	127	-3	98%		B	150	323	173	215%		B	147	104	-43	71%
	AB	80	102	22	128%		AB	74	91	17	123%		AB	95	72	-23	76%
	合計	610	649	39	106%		合計	720	884	164	123%		合計	680	581	-99	85%
山形	A	190	264	74	139%	静岡	A	630	893	263	142%	和歌山	A	180	251	71	139%
	O	160	167	7	104%		O	480	441	-39	92%		O	160	267	107	167%
	B	110	175	65	159%		B	320	414	94	129%		B	100	199	99	199%
	AB	60	59	-1	98%		AB	170	212	42	125%		AB	60	73	13	122%
	合計	520	665	145	128%		合計	1,600	1,960	360	123%		合計	500	790	290	158%
福島	A	430	401	-29	93%	愛知	A	1,161	1,502	341	129%	三重	A	260	461	201	177%
	O	320	285	-35	89%		O	927	1,082	155	117%		O	210	315	105	150%
	B	250	346	96	138%		B	654	819	165	125%		B	135	395	260	293%
	AB	120	102	-18	85%		AB	303	312	9	103%		AB	65	101	36	155%
	合計	1,120	1,134	14	101%		合計	3,045	3,715	670	122%		合計	670	1,272	602	190%
茨城	A	420	607	187	145%	三重	A	3,336	4,378	1,042	131%	福岡	A	1,090	1,389	299	127%
	O	380	469	89	123%		O	2,667	3,009	342	113%		O	870	714	-156	82%
	B	270	301	31	111%		B	1,893	2,855	962	151%		B	522	755	233	145%
	AB	130	142	12	109%		AB	961	1,105	144	115%		AB	318	362	44	114%
	合計	1,200	1,519	319	127%		合計	8,857	11,347	2,490	128%		合計	2,800	3,220	420	115%
栃木	A	340	298	-42	88%	鳥取	A	130	267	137	205%	佐賀	A	110	102	-8	93%
	O	280	201	-79	72%		O	100	202	102	202%		O	90	78	-12	87%
	B	190	211	21	111%		B	75	138	63	184%		B	58	56	-2	97%
	AB	90	83	-7	92%		AB	45	79	34	176%		AB	42	46	4	110%
	合計	900	793	-107	88%		合計	350	686	336	196%		合計	300	282	-18	94%
群馬	A	360	463	103	129%	島根	A	105	201	96	191%	長崎	A	230	328	98	143%
	O	290	444	154	153%		O	80	135	55	169%		O	160	257	97	161%
	B	220	264	44	120%		B	45	71	26	158%		B	130	240	110	185%
	AB	120	161	41	134%		AB	30	51	21	170%		AB	60	111	51	185%
	合計	990	1,332	342	135%		合計	260	458	198	176%		合計	580	936	356	161%
埼玉	A	900	1,619	719	180%	岡山	A	540	709	169	131%	熊本	A	426	623	197	146%
	O	700	1,139	439	163%		O	400	460	60	115%		O	310	341	31	110%
	B	500	804	304	161%		B	280	321	41	115%		B	216	514	298	238%
	AB	300	482	182	161%		AB	150	176	26	117%		AB	116	116	0	100%
	合計	2,400	4,044	1,644	169%		合計	1,370	1,666	296	122%		合計	1,068	1,594	526	149%
千葉	A	860	1,153	293	134%	広島	A	176	241	65	137%	大分	A	240	349	109	145%
	O	770	804	34	104%		O	132	161	29	122%		O	175	162	-13	93%
	B	530	782	252	148%		B	100	218	118	218%		B	120	286	166	238%
	AB	240	206	-34	86%		AB	54	92	38	170%		AB	70	108	38	154%
	合計	2,400	2,945	545	123%		合計	462	712	250	154%		合計	605	905	300	150%
東京	A	2,270	2,049	-221	90%	山口	A	170	258	88	152%	宮崎	A	200	158	-42	79%
	O	1,920	2,232	312	116%		O	120	160	40	133%		O	150	166	16	111%
	B	1,260	1,188	-72	94%		B	80	99	19	124%		B	100	90	-10	90%
	AB	750	965	215	129%		AB	50	80	30	160%		AB	50	58	8	116%
	合計	6,200	6,434	234	104%		合計	420	597	177	142%		合計	500	472	-28	94%
神奈川	A	1,180	1,213	93	100%	徳島	A	230	291	61	127%	鹿児島	A	240	206	-34	86%
	O	1,000	1,893	893	189%		O	165	219	54	133%		O	180	152	-28	84%
	B	700	1,169	469	167%		B	115	142	27	123%		B	120	168	48	140%
	AB	320	464	144	145%		AB	60	59	-1	98%		AB	60	60	0	100%
	合計	3,200	5,649	2,449	177%		合計	570	711	141	125%		合計	600	586	-14	98%
新潟	A	398	566	168	142%	香川	A	200	291	91	146%	全国	全国ブロック別				
	O	351	459	108	131%		O	150	180	30	120%		北海道	4,500	5,298	798	118%
	B	269	348	79	129%		B	100	288	188	288%		宮城	4,950	5,590	640	113%
	AB	152	159	7	105%		AB	50	48	-2	96%		東京	18,760	24,654	5,894	131%
	合計	1,170	1,532	362	131%		合計	500	807	307	161%		愛知	8,857	11,347	2,490	128%
山梨	A	120	165	45	138%	愛媛	A	200	358	158	179%	大岡山	A	10,300	12,896	2,596	125%
	O	90	136	46	151%		O	150	146	-4	97%		大岡山	5,852	7,894	2,042	135%
	B	60	64	4	107%		B	100	215	115	215%		福岡	7,153	8,749	1,596	122%
	AB	30	41	11	137%		AB	50	59	9	118%		福岡	60,372	76,428	16,056	127%
	合計	300	406	106	135%		合計	500	778	278	156%		合計	60,372	76,428	16,056	127%
全国	A	6,848	9,043	2,195	132%	高知	A	2,311	3,120	809	135%	全国血液型別	A	22,545	28,072	5,527	125%
	O	5,781	7,777	1,996	135%		O	1,707	2,122	415	124%		O	18,344	22,075	3,731	120%
	B	3,999	5,131	1,132	128%		B	1,195	1,875	680	157%		B	12,675	18,026	5,351	142%
	AB	2,132	2,703	571	127%		AB	639	777	138	122%		AB	6,808	8,255	1,447	121%
	ブロック計	18,760	24,654	5,894	131%		ブロック計	5,852	7,894	2,042	135%		合計	60,372	76,428	16,05	

平成18年度採血・供給状況表（4月～3月）

1 採血実績

採血方法		平成17年度 (A)		平成18年度 (B)		増減本数 (B)-(A)	対前年度比 (B)/(A)
		本	%	本	%		
採 血 本 数	200mL	983,509	18.8	789,464	15.8	△ 194,045	80.3
	400mL	2,775,203	53.0	2,794,513	56.1	19,310	100.7
	成分採血	1,479,458	28.2	1,399,032	28.1	△ 80,426	94.6
	PPP	699,691	47.3	623,884	44.6	△ 75,807	89.2
	PC	779,767	52.7	775,148	55.4	△ 4,619	99.4
計		5,238,170	100.0	4,983,009	100.0	△ 255,161	95.1

・全血に占める400mLの割合・・・ 78.0%（前年度 73.8%）

2 供給実績

管内供給（換算本数）及び血小板供給内訳（換算本数）

区 分		平成17年度 (A)		平成18年度 (B)		増減本数 (B)-(A)	対前年度比 (B)/(A)
		本	%	本	%		
管 内 供 給	全血製剤	5,411	0.0	3,241	0.0	△ 2,170	59.9
	赤血球製剤	5,811,325	35.5	5,813,443	35.9	2,118	100.0
	血漿製剤	2,876,511	17.6	2,672,697	16.5	△ 203,814	92.9
	血小板製剤	7,674,914	46.9	7,695,949	47.5	21,035	100.3
	計	16,368,161	100.0	16,185,330	100.0	△ 182,831	98.9
血 小 板 内 訳	15単位以上	1,895,435	24.7	1,835,700	23.9	△ 59,735	96.8
	10単位	5,686,230	74.1	5,766,620	74.9	80,390	101.4
	5単位	93,040	1.2	91,285	1.2	△ 1,755	98.1
	2単位以下	209	0.0	2,344	0.0	2,135	1,121.5
	計	7,674,914	100.0	7,695,949	100.0	21,035	100.3

・全血製剤+赤血球製剤の対前年度比・・・ 100.0%

3 血漿分画製剤用原料確保量（単位：L）

区 分	平成17年度 (A)	平成18年度 (B)	対前年度比 (B)/(A)
計 画	904,569	930,000	102.8%
実 績	945,209	928,823	98.3%
達 成 率	104.5%	99.9%	—

4 原料血漿送付量（単位：L）

区 分	平成17年度 (A)	平成18年度 (B)	対前年度比 (B)/(A)
送付実績	650,615	680,290	104.6%

「献血構造改革の重点事項」に係る各事業の実施状況(平成19年4月現在)

	実施要綱	平成18年度 目標と実績	平成19年度 目標と実施計画
1. 若年層献血者等確保推進事業	<p><目的> 少子高齢化が益々進行していく中で、将来にわたって安定的に献血者を確保できる基盤をつくるため、国が掲げる献血構造改革に基づき、若年者への献血普及・啓発を実施する。</p> <p><目標> 10代、20代の献血者構成比を平成22年度までに40%まで上昇させる。</p> <p><具体策> 高校生の初回献血の推進及び18歳の高校生を対象に、例えばエイティーン・卒業献血などの実施。併せて、各都道府県教育委員会の理解と協力を求める。大学献血の積極的な実施とともに、献血の実施だけでなく、例えばセミナーやコンサートなどを開催し多方面から献血への意識付けや動員を図る。また、パソコンや携帯電話を用いた「携帯クラブ」の更なる活用により若年層への積極的な働きかけを行う。更には、若年層に魅力のある献血ルームのあり方を検討し、若年層を中心とした複数回献血の推進など各種対策を適宜考案する。</p>	<p>目標30.0%</p> <p>実績31.0%</p>	<p>目標32.0% ※平成22年度までに40.0%</p> <p>血液事業広報の重点課題として、全国キャンペーン(はたち、春)の広報キャラクターに若年層に最も支持を受けているタレントを起用する等、複数回献血者とともに若年層献血者数を前年度よりも50,000人増加することを目的とした広報企画を展開する。</p> <p>・はたちの献血キャンペーン(1~2月) ・いっしょに献血キャンペーン(3~4月)</p>
ア 青少年等献血ふれあい事業	<p><目的> 血液センター、血漿分画センター、献血バス等の施設見学を推進し、スライド等の説明用資料を製作・活用した説明会や献血ボランティア体験学習等を行う。</p> <p><対象> 小学生、中学生及び高校生</p> <p><条件> ・1センターあたり320名以上受入れる。</p>	<p>実施回数48回 受入人数15,360人</p> <p>実施回数 474回 参加人数 31,556人</p>	<p>前年度に対して10%増加 ※平成22年度までに毎年度ごと前年度に対して10%ずつ増加させる。</p> <p>実施回数 578回 参加人数 45,867人</p>
イ 若年者献血セミナー事業	<p><目的> 血液センター施設及び地域の施設等を利用して、若年者向けの献血セミナーを開催し、献血への理解と協力意識の向上を図る。</p> <p><対象> 10代後半~30代前半の若年層</p> <p><条件> 1センターあたり2回以上実施</p>	<p>実施回数94回</p> <p>実施回数209回 参加人数25,219人</p>	<p>前年度に対して10%増加 ※平成22年度までに毎年度ごと前年度に対して10%ずつ増加させる。</p> <p>実施回数 225回 参加人数 23,035人</p>
2. 献血協力組織育成研修事業			
ア 献血協力団体研修事業	<p><目的> 学生ボランティア及び献血推進団体の連携強化を目的として、より一層献血推進活動が活発になるよう相互の打ち合わせや研修会を開催する。</p> <p><対象> 全国学生ボランティア及びライオンズクラブ等の献血推進団体</p> <p><条件> 基幹センター単位に実施する。</p>	<p>実施回数26回 参加人数810人</p>	<p>前年度に対して10%増加 ※平成22年度までに毎年度ごと前年度に対して10%ずつ増加させる。</p> <p>実施回数 31回 参加人数 932人(内大学生535人)</p>
イ 献血協賛企業活動推進事業	<p><目的> 献血協力企業・団体が行う献血活動を社会貢献活動の一つとして広く社会に認知されるよう、ロゴマーク等を発行することにより、企業・団体が行う献血活動の普及・拡大を図る。</p> <p><目標> 平成16年度末現在の献血協力企業・団体数23,890社を5年間で倍増させる。</p> <p><対象> 献血協力企業・団体</p> <p><条件> 国が作成した「献血サポーター」マーク(「以下「ロゴマーク」という。)の取り扱いについては、日本赤十字社が作成した「献血サポーター」参加企業・団体活動規約に基づくこと。</p> <p><補足> ロゴマークの取り扱いについて国と日赤との間で1年半(平成17年度~平成18年度途中)にわたり協議・検討していたことから、実質上、平成19年2月20日付血献第24号により、当該事業が開始された。</p>	<p>初年度ロゴマーク配布目標数2,400件</p> <p>ロゴマーク配布数1,454件 企業・団体数30,835社</p>	<p>(前年度に対して25%増加) ロゴマーク配布数2,400件 企業団体数33,600件 ※平成22年度までに毎年度ごと前年度に対して25%ずつ増加させる。</p> <p>・ロゴマーク配布数2,426件 ①ウェブサイトの構築 ②ロゴマーク普及用ポスター製作 ③ロゴマークステッカー製作</p>
3. 複数回献血協力者確保事業	<p><目的> 安全な血液を安定的に確保するため、事業年度内に複数回の献血に協力する献血者(以下「複数回献血協力者」という。)を確保する。</p> <p><目標> 平成17年度に献血者全体の27%とされた複数回献血協力者を、平成21年度までに35%へ上昇させる。</p> <p><対象> 複数回献血への協力の意志があり、かつ電子メールアドレスを所有しているか、もしくは業務等で連絡が可能な献血者とする。また、統一システムにおいて検査履歴等のデータを保有する献血適格者とする。</p> <p><実施内容> 各血液センターに複数回献血クラブを設置し運営する。運営方法として、クラブ会員への情報誌及び電子メール等による情報発信、血液事業の仕組み及び複数回献血の重要性等に関する各種講演会、並びに健康相談事業を実施する。</p>	<p>目標 複数回献血者30% クラブ会員数5万人</p> <p>実績 複数回献血者28% クラブ会員数7万人</p>	<p>目標 複数回献血者32% クラブ会員数15万人 ※平成21年度までに複数回献血者35%</p> <p>複数回献血の推進を図るため、複数回献血クラブ会員への特典(過去の検査サービステキスト結果を閲覧できるシステム等)を構築する。</p>

輸血用血液製剤への保存前白血球除去及び採血時における初流血除去の実施について

1. 輸血用血液製剤への保存前白血球除去の実施について

輸血用血液製剤に含まれる白血球は、発熱反応、輸血関連急性肺障害などの副作用、サイトメガロウイルス(CMV)感染の原因となるほか、同種抗原として受血者に抗白血球抗体を産生させ、血小板不応状態を誘導することが知られている。

このような有害事象は輸血用血液製剤中に含まれる白血球数を 1×10^6 個以下にすることで多くは予防可能とされていることから、日本赤十字社では輸血用血液製剤に対する、全ての製剤について保存前白血球除去を実施した製剤を供給することとし、既に全ての輸血用血液製剤について対応した。

- ・血小板製剤：平成 16 年 10 月 25 日採血分
- ・成分採血由来血漿製剤：平成 18 年 3 月 1 日採血分
- ・全血採血由来製剤：平成 19 年 1 月 16 日採血分

なお、全血採血由来製剤については、平成 18 年 10 月 19 日に白血球除去製剤としての製造販売承認を取得済み。

2. 採血時における初流血除去の実施について

輸血用血液製剤への細菌混入のひとつの原因として、採血の際に消毒が困難な皮膚毛嚢を通過した穿刺や切り取られた小皮膚片のバッグ内への混入が考えられる。

輸血用血液製剤への細菌混入の低減化を図るためには、皮膚常在菌が混在する可能性が高い採血開始直後の血液（初流血）を除去することが有効であることから、初流血約 25mL を別のバッグに採血して除去した製剤を供給することとした。

その実施状況は次のとおり。

- ・血小板製剤：平成 18 年 10 月 26 日採血分
- ・全血採血由来製剤：平成 19 年 3 月 26 日採血分
- ・血漿製剤：平成 19 年度内実施予定

なお、除去した初流血は検査用血液として使用している。

医薬品の適正使用に欠かせない情報です。必ずお読みください。

新鮮凍結血漿の容量が1.5倍になります

日本赤十字社では平成19年8月1日より、保存前白血球除去を実施した新鮮凍結血漿-LR「日赤」(FFP-LR-1及びFFP-LR-2)の供給を開始いたします。

新鮮凍結血漿-LR「日赤」の容量は現在お届けしている全血採血由来の新鮮凍結血漿「日赤」(FFP-1及びFFP-2)のそれぞれ1.5倍となっておりますので次のとおりご案内いたします。

【製剤の容量】

現在お届けしている全血採血由来の新鮮凍結血漿「日赤」の容量は、80mL及び160mLです。

新鮮凍結血漿-LR「日赤」の容量は、約120mL及び約240mLで、従来品の1.5倍となります。

実血漿量も従来品の1.5倍になりますので、

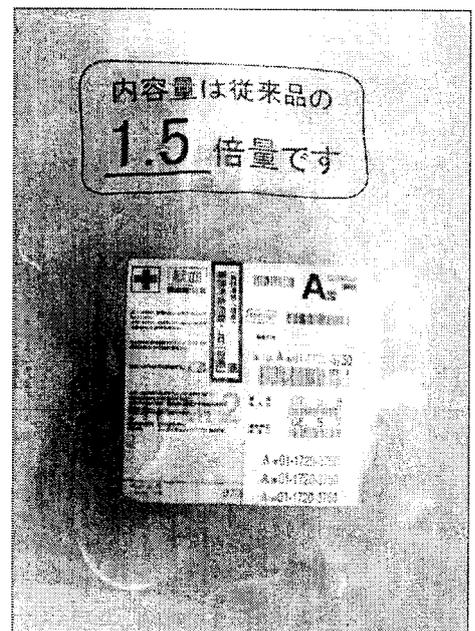
血液凝固因子等は従来品の

1.5倍 含まれています。

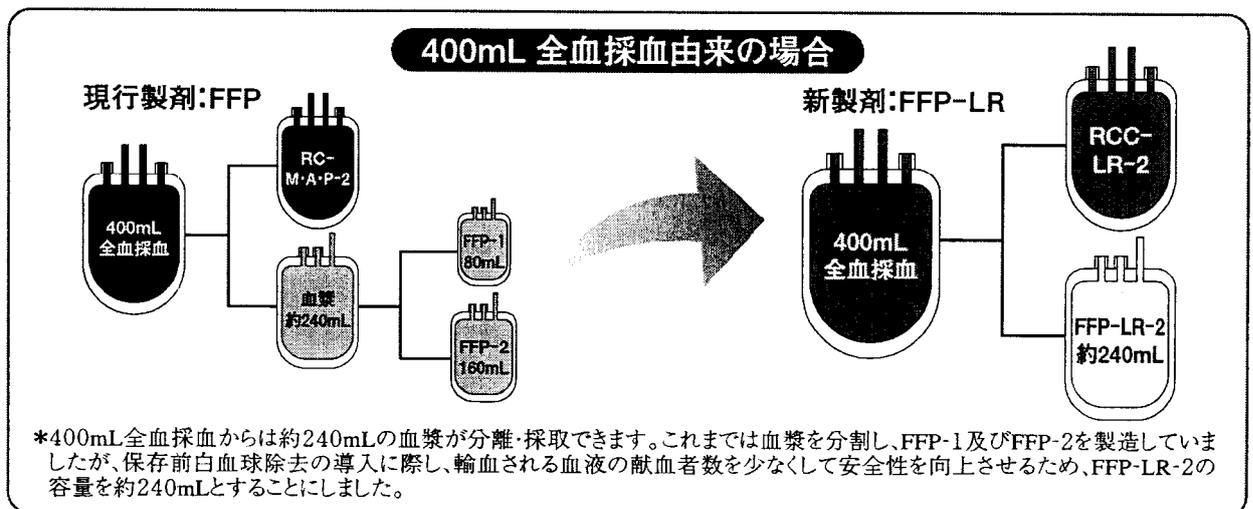


ご使用にあたっては**過剰投与等**に十分ご注意ください。

【包装袋への容量に関する記載】



当面の間、「内容量は従来品の**1.5倍量です**」と赤字で記載します。



製造販売元
日本赤十字社
 東京都江東区辰巳二丁目1番67号

【対象製剤】

販売名 (一般名)	略号	包装	算定用容量
新鮮凍結血漿-LR「日赤」 (新鮮凍結人血漿)	FFP-LR-1	血液200mL相当に 由来する血漿1袋	120mL
	FFP-LR-2	血液400mL相当に 由来する血漿1袋	240mL

【供給開始日】

平成19年8月1日から供給を開始いたします。新鮮凍結血漿「日赤」(FFP-1及びFFP-2)の供給は7月31日をもって終了させていただきます。

*D(Rho)陰性等の製剤の要請をいただいた場合で、新鮮凍結血漿-LR「日赤」の供給が困難なときには、従来品(新鮮凍結血漿「日赤」)をお届けすることがあります。

その場合、容量はFFP-1が80mL、FFP-2が160mLとなりますのでご注意ください。

【輸注に伴う注射料の算定用容量】

算定用容量はFFP-LR-1が120mL、FFP-LR-2が240mLです。

【包装箱の寸法】

容量が従来品の1.5倍になることに伴い、包装箱の寸法が大きくなります。現在お使いの収納容器や棚の寸法をご確認くださいませようお願いいたします。

寸法(縦×横×厚み)			
新鮮凍結血漿-LR「日赤」		新鮮凍結血漿「日赤」(従来品)	
FFP-LR-1	205×120×21mm	FFP-1	193×120×15mm
FFP-LR-2	220×132×28mm	FFP-2	194×132×23mm

【お問い合わせ】

最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者へお願いいたします。

広域的な業務集約の進捗状況について

[検査業務の集約予定]

	集約エリア分け	検査実施施設 (平成19年7月現在)	検査実施施設 (平成20年6月現在)		
	全 国	22	10		
1	北海道 検査実施数	北海道 1	北海道 1		
2	青森 岩手 秋田 宮城 山形 福島 検査実施数	青森 岩手 秋田 宮城 福島 5	宮 城 1		
	3	栃木 群馬 埼玉 長野 新潟 検査実施数	埼 玉 新 潟 2	埼 玉 1	
		4	茨城 山梨 東京都 千葉 神奈川 検査実施数	東 京 都 千 葉 神 奈 川 3	東 京 都 1
			5	富山 石川 福井 検査実施数	石 川 1
6	岐阜 静岡 愛知 三重 検査実施数			愛 知 1	愛 知 1
	7			滋賀 大阪 和歌山 京都 奈良 兵庫 検査実施数	大 阪 兵 庫 2
		8	徳島 岡山 鳥取 香川 高知 検査実施数	岡 山 1	岡 山 1
			9	愛媛 島根 山口 広島 検査実施数	広 島 1
10				福岡 佐賀 大分 長崎 熊本 宮崎 鹿児島 沖縄 検査実施数	福 岡 熊 本 宮 崎 鹿 児 島 沖 縄 5

[製剤業務の集約案]

	集約エリア分け (案)	製造実施施設 (平成19年7月現在)	製造実施施設 (今後の予定)		
	全 国	50	20		
1	北 海 道	北 海 道	北 海 道		
2	旭 川	旭 川	旭 川		
3	釧 路	釧 路	釧 路		
4	青森 岩手 秋田 宮城 山形 福島	青森 岩手 秋田 宮城 山形 福島	左記「集約エ リア分け(案)」をも とに検討を行っ ている		
	5	茨城 千葉		茨城 千葉	
		6		栃木 群馬 長野 新潟	栃木 群馬 長野 新潟
				7	埼玉 東京 山梨 神奈川 湘南
8	富山 石川 福井				富 山 石 川 福 井
	9				岐阜 静岡 愛知 三重
10		滋賀 大阪 和歌山 京都 奈良 兵庫		滋 賀 大 阪 大 阪 大 阪 和 歌 山	
		11		鳥取 岡山 山口	鳥 取 岡 山 山 口
				12	徳島 香川 愛媛 高知
13	福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄	福 岡 長 崎 熊 本 大 分 宮 崎 鹿 児 島 沖 縄			
	14	九州集約施設 (久留米)			九州集約施設 (久留米)
		15			
				20	沖 縄